

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査における柏市の調査結果の概要  
 柏市立教育研究所

柏市の今年度の結果

各調査の平均正答率（小数点以下四捨五入）及び標準化得点は下表のとおりです。小学校、中学校共に、概ね全国平均と同程度でした。

※「標準化得点」とは、柏市の平均正答率を、全国平均正答率を100として換算した値です。

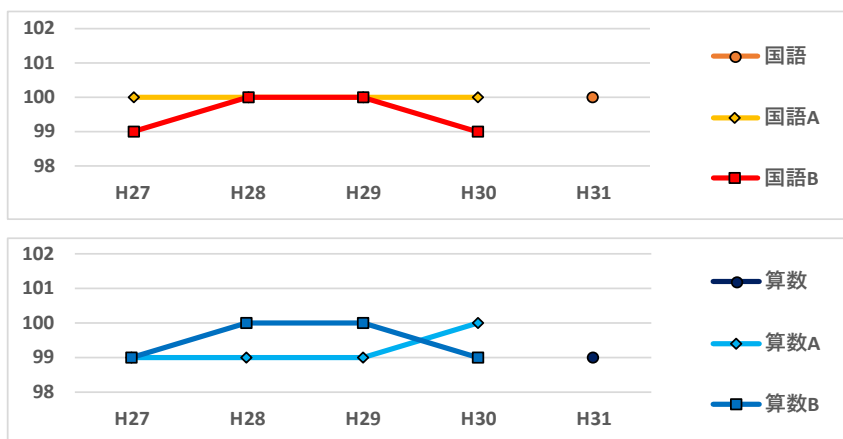
過去の調査の標準化得点と比較することで、柏市の経年変化のおおよその傾向を把握することができます。

		小学校		中学校		
		国語	算数	国語	数学	英語
全国	平均正答率 (%)	63.8	66.6	72.8	59.8	56.0
柏市	平均正答率 (%)	64	65	71	59	57
	標準化得点	100	99	99	99	100

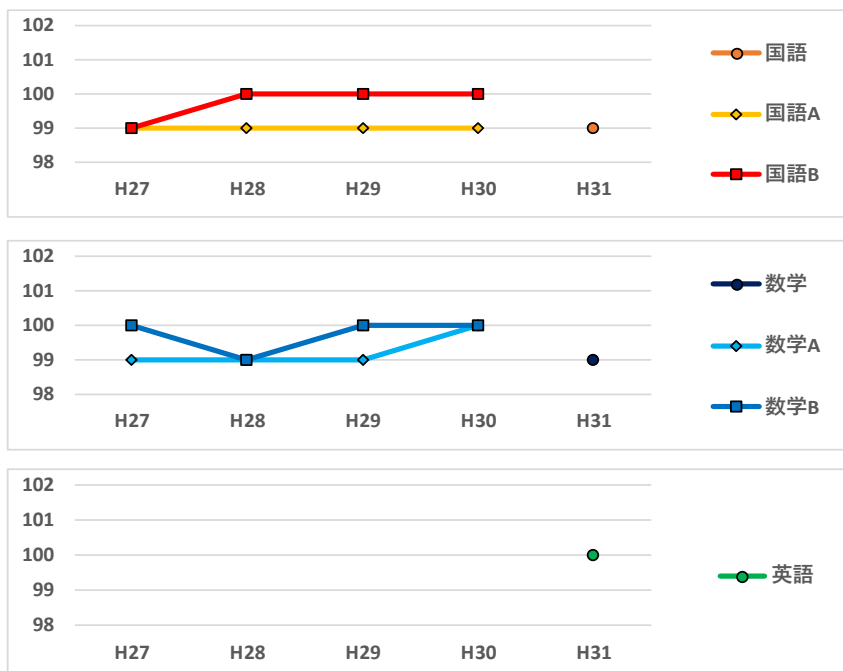
柏市の標準化得点の推移（平成27年度～31年度）

平成27年度以降、概ね全国平均と同程度の結果で推移しています。

【小学校】



【中学校】

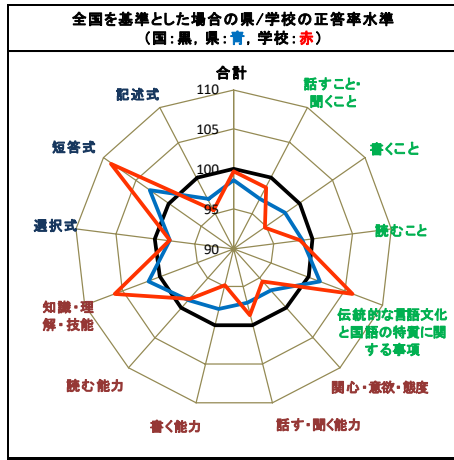


## 教科の傾向と課題 について

※標準化得点 <全国平均正答率を100とした場合の、柏市の平均正答率（赤）>を表しています。

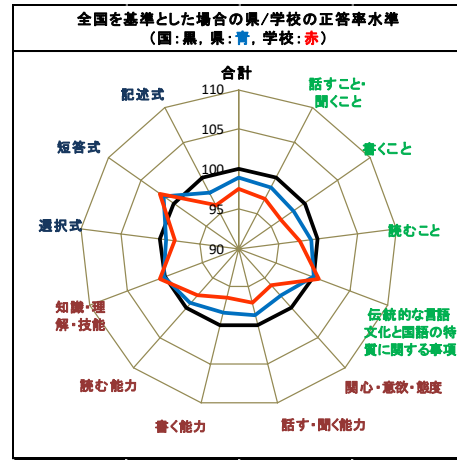
※課題への詳細な対応策は、「平成31年度柏市学力・学習状況調査結果報告及び改善案」をご覧ください。

### 【小学校 国語】



「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で漢字の習得に向上がみられました。一方、「書くこと」の領域内容である、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと等、記述式に課題がみられました。

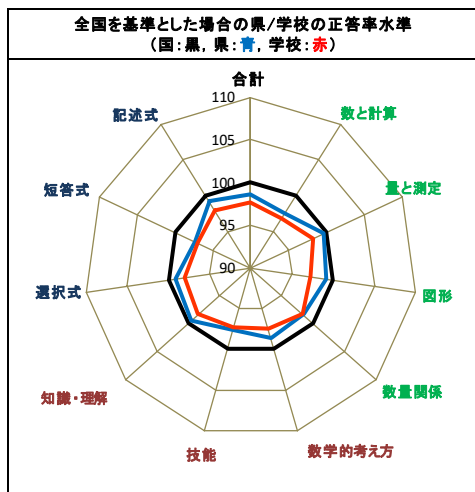
### 【中学校 国語】



「話すこと・聞くこと」の領域や記述式（文章で解答する）問題に課題がみられます。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で、封筒の書き方を理解して書く問題について全国をわずかに上回りました。

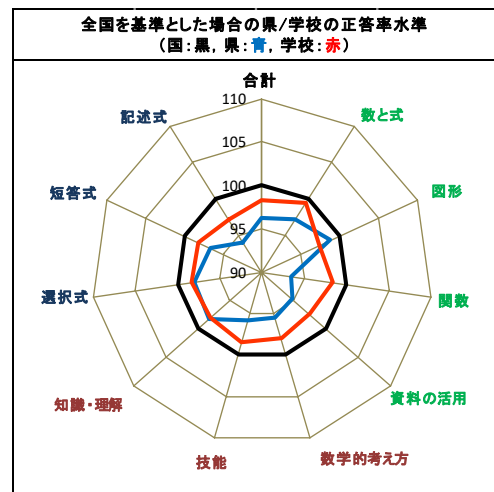
「話す・聞く」「書く」「読む」それぞれの領域で、児童生徒が学習の目的を明確に持ち、主体的に学習に臨めるよう指導改善に努めます。

### 【小学校 算数】



領域別では、「量と測定」で昨年度から向上がみられました。問題別では、図形の知識を活用する問題で、示された図形をずらしたり、回したり、裏返したりすることで、ほかの図形を構成することができるかどうかをみる問題に課題がみられました。

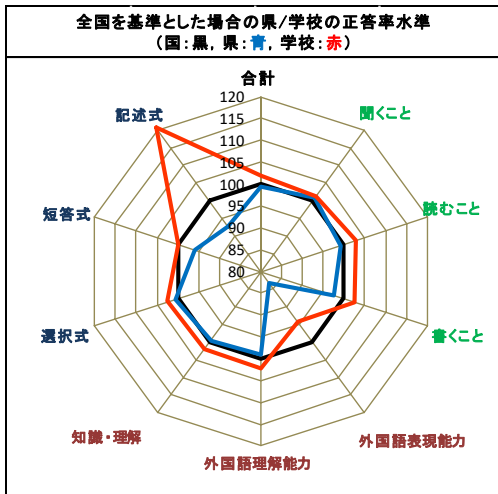
### 【中学校 数学】



「数と式」の領域については、簡単な連立二元一次方程式を解くことについて改善がみられ、全国平均に近づいています。小学校と同様、事柄が成り立つ理由を説明するなどの「記述式」の問題で課題がみられました。

・児童生徒が課題解決の見通しがもてるように、学習のめあてや今まで習った内容との相違点などを明確にしていきます。  
・児童生徒が自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いて疑問点を問い直したりするなど、互いに学び合うことを通して理解をさらに深められるよう、指導改善に努めます。

## 【中学校 英語】



全国と比較すると、ほぼ同等の結果となっています。「記述式」の解答形式が全国を上回っており、柏市の強みと言えます。問題別にみると、「読む」領域で向上がみられ、日常的な話題について、情報を正確に読み取ることができています。

英文の意味を理解するだけでなく、賛否や感想、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、統合的な言語活動に結び付けていけるよう、指導改善に努めます。

## 生活習慣や学習環境等 について (児童・生徒質問紙調査から)

### 1 【学習への取組状況】

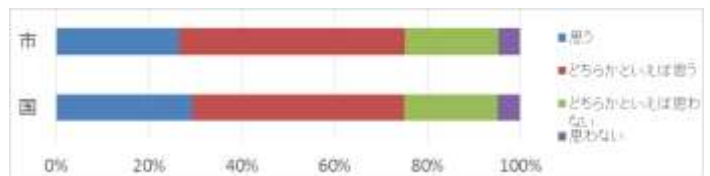
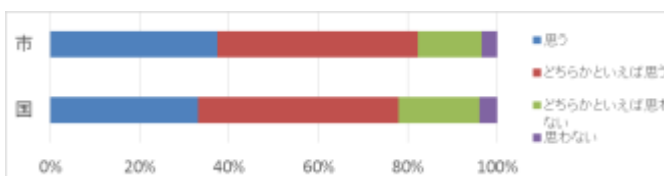
柏市では「学び続ける力」につながる「学ぶ意欲」と「学ぶ習慣」を育むために、さまざまな取組を行っています。授業中、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと肯定的な回答をしている割合は、国と比較して、中学校は同程度、小学校では国を上回っており、良好な状況です。

また、各学校においては、学級の友達と関わり合いながら自分の考えを深め、表現する力の育成に努めています。今後も児童生徒の興味・関心を生かし、生涯にわたり学び続ける基礎を培っていけるよう働きかけていきます。

### ◆前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思うか

小学校

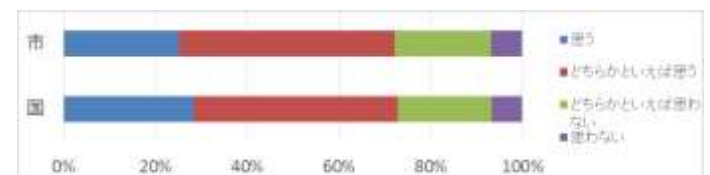
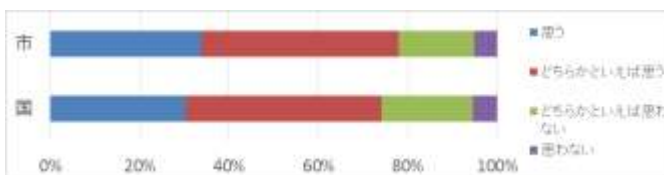
中学校



### ◆学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか

小学校

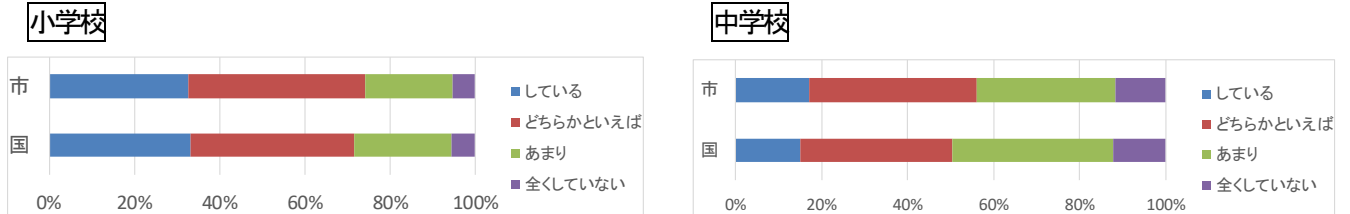
中学校



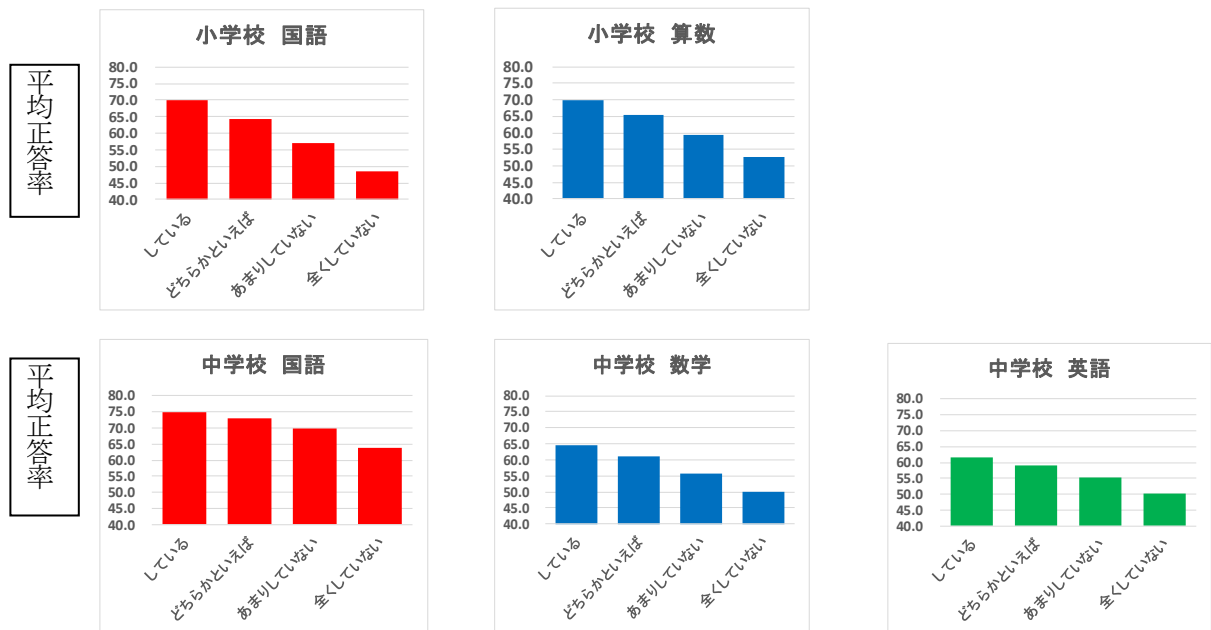
## 2【家庭学習への取組状況】

柏市の児童生徒は、自分で計画を立てて勉強している割合が、小学校は国と比較して同程度、中学校は国より高くなっています。また、2時間以上家庭学習をしている割合が国と比較して多い一方で、「しない」と回答する児童生徒もおり、二極化していることが課題です。

### ◆家で自分で計画を立てて勉強をしているか

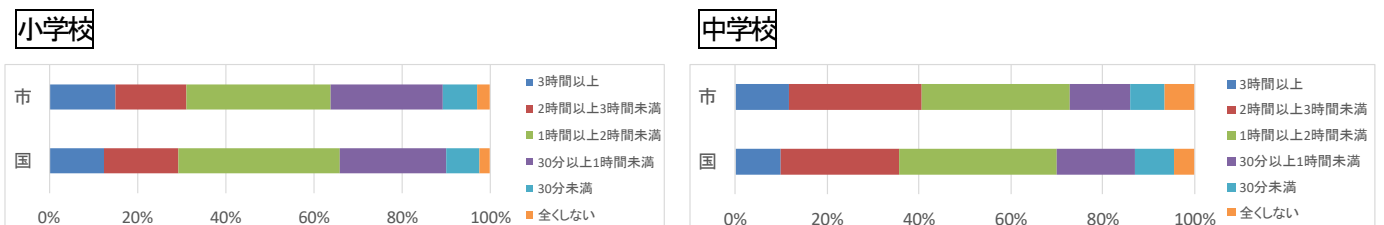


### 自分で計画を立てて勉強することと、国語、算数・数学、英語の正答率との関係

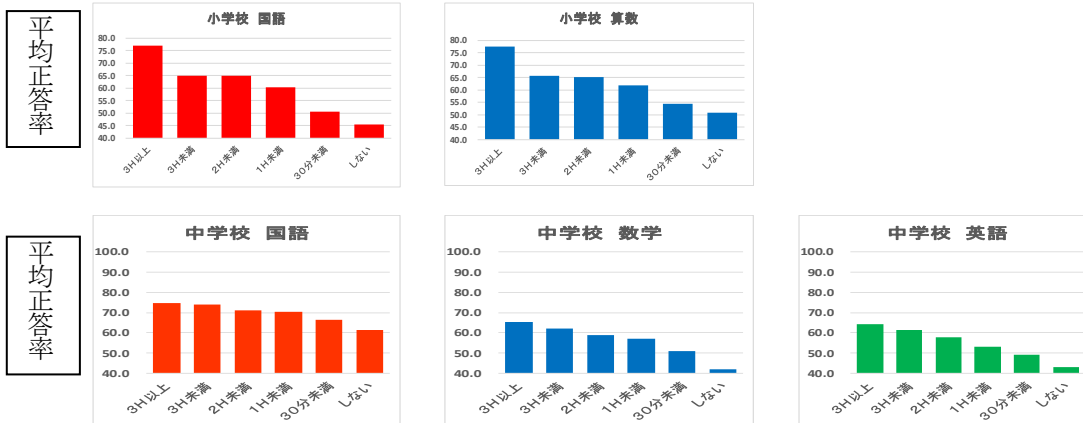


家で自分で計画を立てて勉強している児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向にあります。

### ◆学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）



**家庭学習の時間と、国語、算数・数学、英語の正答率との関係**



家庭学習の時間が長い児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向にあります。

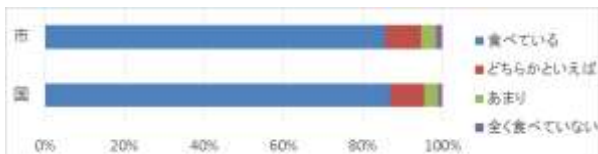
**3【基本的な生活習慣】**

「朝食を毎日食べているか」の質問は、国とほぼ同等の結果でした。各学校においては、引き続き健康と食への関心を高める指導の工夫を推進していきます。

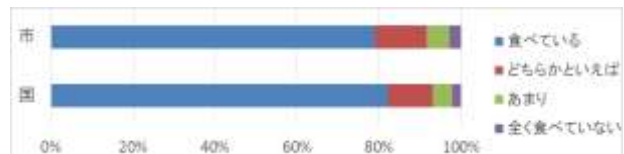
また、人への手助けについては、小中ともに国を上回っています。教育活動全体を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育て、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養っていきます。

**◆朝食を毎日食べているか**

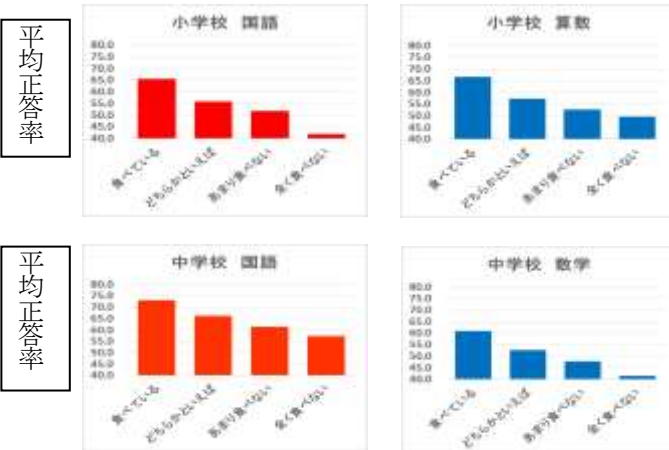
小学校



中学校



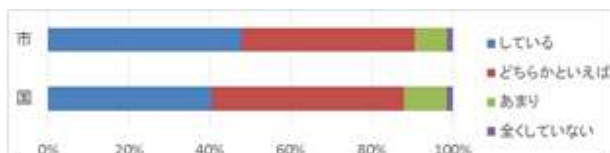
**朝食を食べることと国語、算数・数学、英語の正答率との関係**



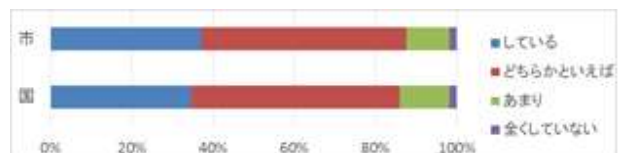
朝食を食べている児童生徒ほど、正答率が高い傾向にあります。  
(朝食を食べれば正答率が上がるという因果関係はありません。)

**◆人が困っているときは、進んで助けているか**

小学校



中学校



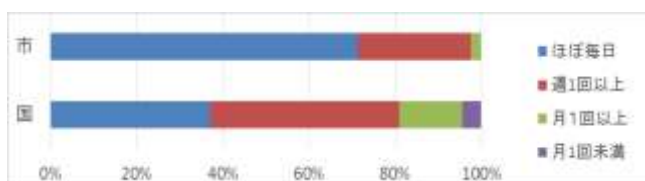
## 学校の取組について（学校質問紙調査から）

### 【授業での ICT 機器の活用について】（昨年度の小学5年・中学2年において）

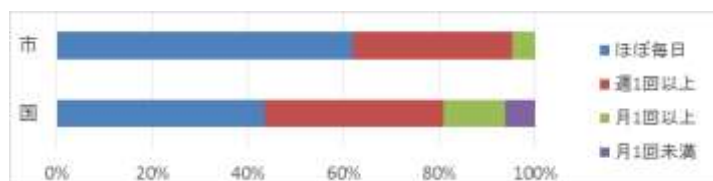
小学校・中学校ともに、国よりも高い水準で、ICT機器を活用した授業を行っています。特に、算数や数学の授業での活用が顕著です。今後もICT機器を効果的に活用したわかりやすい授業を展開するとともに、ICT機器を活用し子ども同士が教え合い学び合う学習を推進していきます。

### ◆調査対象学年の児童生徒に対する指導において、前年度に教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行ったか

#### 小学校



#### 中学校



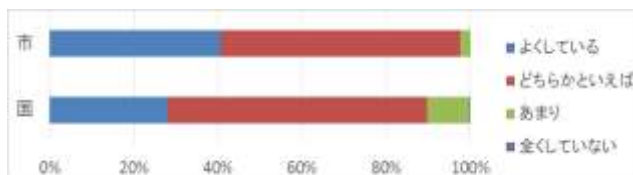
### 【家庭や地域との連携について】

教育課程の共有を図る取組については、小学校・中学校ともに国よりも高い水準です。

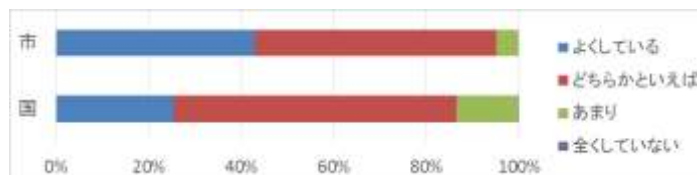
「社会に開かれた教育課程」の実現を目指した組織づくりに取り組んでいくために、これからも地域・家庭との連携・協働を大切にしていきます。

### ◆教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っているか

#### 小学校



#### 中学校



### ※ 全国学力・学習状況調査の分析結果について

本調査は必ずしも過去の学習内容全体を網羅するものではなく、把握できるのは、あくまでも個々の学力の特定の一部であることを申し添えます。

### ★ 柏市教育委員会の、学力向上への取組について

全国学力・学習状況調査は、小学校6年生・中学校3年生を対象とした調査ですが、柏市教育委員会では、児童生徒の毎年の状況を継続的に把握するため、平成24年度から独自に小学校2年生から中学校3年生までを対象とした柏市学力・学習状況調査（以下柏市調査と表記）を実施しています。

つきましては、柏市教育委員会における学力向上への取組は、柏市調査の結果分析を踏まえて計画・実施していますので、その詳細は「平成31年度（令和元年度）柏市学力・学習状況調査結果報告及び改善案『学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む』」（<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/272000/p037779.html>）をご覧ください。